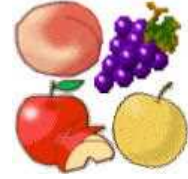




平成30年度 果樹情報 第9号

(平成30年7月23日)



福島県農林水産部農業振興課

1 気象概況 (7月前半: 果樹研究所)

平均気温は、1半旬が27.5℃で平年より5.7℃高く、2半旬が22.8℃で平年より0.4℃高く、3半旬が27.0℃で平年より3.9℃高く経過しました。

1半旬から3半旬の降水量は32.5mmで平年の34%でした。

2 生育状況 (7月15日時点: 果樹研究所)

(1) もも

ア 果実肥大

暦日比較では、「あかつき」は縦径が63.5mmで平年比116%、側径が65.0mmで平年比114%、「ゆうぞら」は縦径が57.9mmで平年比118%、側径が55.3mmで平年比123%と両品種ともに平年より大きい状況です。また、満開後日数による比較では、「あかつき」が平年並、「ゆうぞら」は平年より大きい状況です。

イ 新梢生長

満開後90日(7月9日)における「あかつき」の新梢長は平年比63%と短く、展葉数は平年比80%と少ない状況です。葉色(SPAD値)は平年比98%とほぼ平年並で、新梢の二次伸長が始まっています。「ゆうぞら」は、新梢長が平年比118%と長く、展葉数は平年比109%とやや多い状況です。葉色(SPAD値)は平年比93%とやや淡く、新梢伸長はほぼ停止しました。

ウ 核障害の発生

「あかつき」の満開後95日における核障害の発生は、核頂部の亀裂が25%、縫合面の割裂が5%であり、過去16年間の平均と比較するといずれも少ない状況です。

エ 収穫期予測

DVRモデルによる「あかつき」の収穫期予測(7月17日現在)では、本年の収穫始めは7月23日頃で平年より10日早く、収穫盛りは7月27日頃で平年より9日早い見込みです。

オ 早生品種の収穫期と果実品質

「はつひめ」の収穫始めは6月29日、収穫盛りは7月1日で平年よりも9~10日早まりました。果実の大きさは239gと平年より小さく、糖度は13.5と平年よりも高めでした。

「日川白鳳」の収穫始めは7月2日、収穫盛りは7月5日で平年よりも14日早まりました。果実の大きさは244gと平年よりもやや大きく、糖度は13.3と平年よりも高めでした。

「暁星」の収穫始めは7月13日で平年よりも10日早まりました。

表1 モモ早生品種の収穫状況

	収穫始			収穫盛			収穫終			果実重			糖度(° Brix)		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
はつひめ	6/29	7/ 8	7/ 7	7/ 1	7/11	7/11	7/ 5	7/15	7/13	239	261	273	13.5	11.3	13.1
日川白鳳	7/ 2	7/16	7/10	7/ 5	7/19	7/11	7/ 9	7/22	7/13	244	230	249	13.3	10.7	12.6
暁星	7/13	7/23	7/18	未	7/27	7/22	未	7/31	7/28	211	215	221	14.8	12.7	14.0
ふくあかり	7/13	7/24	7/21	未	7/30	7/25	未	8/ 3	7/31	278	259	284	14.4	12.8	13.9
あかつき	未	8/ 2	7/31	未	8/ 5	8/ 2	未	8/10	8/ 7	未	265	278	未	12.6	13.6
まどか	未	8/10	8/ 8	未	8/14	8/13	未	8/19	8/17	未	333	397	未	13.2	13.5

※ 平年値は1986年~2015年(「はつひめ」「ふくあかり」は2009年~2015年)の平均値。

未は未確定。「暁星」「ふくあかり」の果実重・糖度は収穫始の値(参考値)。

(2) なし

ア 果実肥大

7月15日の暦日比較では、「幸水」は縦径が51.6mmで平年比132%、横径が61.3mmで平年比131%、「豊水」は縦径が49.0mmで平年比122%、横径が54.0mmで平年比125%と両品種ともに大きい状況です。また、満開後日数による比較では、「幸水」が平年より大きく、「豊水」が平年並です。

イ 新梢生長

満開後80日（7月5日）における「幸水」の予備枝新梢長は105.1cm（平年比93%）で平年よりもやや短く、予備枝新梢の葉数は30.0枚（平年比98%）で平年並です。予備枝新梢伸長停止率は100%（平年90.0%）で平年より高い状況です。

満開後80日（6月30日）における「豊水」の予備枝新梢長は102.8cm（平年比96%）でほぼ平年並です。予備枝新梢の葉数は27.6枚（平年比95%）で平年よりやや少ない状況です。予備枝新梢伸長停止率は100%（平年86.7%）で平年より高い状況です。

ウ 裂果発生

「幸水」における裂果は確認されませんでした（平年の裂果初発日は7月14日：1990～2017年平均）。

エ 「幸水」の収穫期予測

7月17日現在、DVRモデルによる「幸水」の収穫期予測では、収穫盛りは8月20日頃（満開後126日）で平年より11日早い見込みです。

(3) りんご

ア 果実肥大

7月15日の暦日比較では、「つがる」は縦径が69.2mmで平年比121%、横径が77.4mmで平年比119%と平年より大きく、「ふじ」は縦径が55.9mmで平年比109%、横径が62.1mmで平年比112%と平年より大きい状況です。また、満開後日数による比較では、「つがる」は平年より大きく、「ふじ」は平年並です。

イ 新梢生長

新梢伸長は、満開後80日（7月11日）の調査で「つがる」の一部に二次伸長が認められました。

(4) ぶどう

「巨峰」の着色開始は、有核栽培が7月14日、無核栽培が7月13日でいずれも平年より7日早まりました。「あづましずく」では、長梢栽培が7月9日で平年より5日早く、短梢栽培が7月11日で平年より6日早まりました。

表2 ぶどうの着色開始の状況

品種		着色開始					
		2018	2017	2016	2015	2014	平年
巨峰	有核	7/14	7/17	7/19	7/14	7/21	7/21
	無核	7/13	7/17	7/18	7/12	7/19	7/20
あづましずく	長梢	7/ 9	7/14	7/11	7/ 6	7/15	7/14
	短梢	7/11	7/16	7/15	7/ 9	7/16	7/17

注) 平年値は2008年～2017年の平均。

気象庁[営農活動に役立つ気象情報] <http://www.jma.go.jp/jma/kishou/nougyou/nougyou.html>

3 栽培上の留意点

(1) 土壌の水管理

福島地方气象台によれば、東北地方南部は7月14日頃（平年より11日早い）に梅雨明け

したと見られます。本年は6月、7月とも降水量が平年よりかなり少ない傾向にあり、今後、晴天日が続くようであれば、かん水を実施しましょう。

盛夏期における果樹園からの1日当たりの蒸発散量は、晴天日で6～7mm、曇天日で2～3mm、平均で4mm程度であるので、1回のかん水は25～30mm程度(10a当たり25～30t)を目安とし、5～7日間隔で実施しましょう。保水性が劣る砂質土壌などでは、1回のかん水量は少なくして、かん水間隔を短くしましょう。

ただし、ももでは収穫5～7日前以降のかん水は糖度など品質の低下につながりやすいので、かん水が必要な場合は早めに実施しましょう。

(2) もも

ア 修正摘果

硬核期が終了し、肥大不良果や変形果、核に障害をもった果実などが徐々に目立ってきています。このため、収穫を控えた中生品種の修正摘果は数回に分けて丁寧に実施するとともに、果頂部が変形している果実や縫合線が深い果実、果面からヤニが噴出している果実、果皮の一部が変色している果実、極端に肥大の早い果実、果頂部の着色が早い果実などは、核や胚に障害があることが多いので、これらの果実に注意して摘果を実施しましょう。

イ 中生品種の収穫前管理

「あかつき」の収穫期予測では、平年より9日早い見込みです。果樹研究所内の「あかつき」はすでに着色期に入っていますが、これ以降の中生品種においても、夏季せん定、支柱立てや枝吊り、反射シートの設置など収穫前の管理が遅れないよう計画的に実施しましょう。

(3) なし

ア 新梢誘引

不定芽新梢を含めた新梢誘引は、受光条件の改善や防除効果の向上、冬季せん定後の棚付けの省力化が図られることから、必ず実施しましょう。特に「豊水」の新梢は、湾曲したり下垂しやすいことから、新梢誘引により発生方向を整えましょう。

イ 修正摘果

「幸水」は裂果が終息(満開後90日頃)したら修正摘果を実施しましょう。修正摘果は、変形程度の著しい果実、果点コルク間の地色が薄い果実(肥大が停滞しやすい)及び満開後100日(7月25日)頃の横径が60mm未満の小さな果実を整理しましょう。

「豊水」は満開後100日(7月21日)頃を目安に小玉果と変形果を摘果しましょう。

(4) りんご

ア 修正摘果

現在、果実肥大や果形、障害の有無等の区別が付きやすい時期なので、小玉果、変形果、病虫害被害果、サビ果を中心に修正摘果を実施しましょう。特に結実数の多かった園地では、仕上げ摘果実施後でも着果過多になりやすいので、修正摘果を実施し適正着果に努めましょう。

イ 枝吊り・支柱立て

果実の肥大にともない枝が下垂するので、樹冠内部の受光条件の改善、枝折れ防止及び防除効果の向上のため支柱立て及び枝吊りを実施しましょう。冬季せん定時に想定した高さまで枝を持ち上げ、養分が枝先まで達するようバランスを考えて実施しましょう。

なお、高温条件下では果実に直射日光が当たることにより日焼け果の発生を助長するため、修正摘果に当たっては着果位置に注意してください。

(5) ぶどう

ア 着果管理

ぶどうの着色始めは、果房中のいくつかの果粒が飛び玉状に濃く着色するのが望ましい状態です。全体的にぼんやりと色がまわってくるような場合は、着果過多によるものと考えられるので、早急に着房数の見直しを行いましょう。また、着色期の日照不足も着色不良を招くため、込み合っている部分の新梢整理も併せて行いましょう。

イ 新梢管理

新梢が遅伸びすると、光合成により生産された養分は新梢の伸長に消費されてしまい、果実への転流が少なくなります。果実品質の低下や新梢の登熟不良を防ぐために、遅伸びしている新梢の摘心や余分な新梢の整理と誘引の見直し、副梢の整理と摘心等を実施し、棚面の明るさを確保しましょう。

具体的には、7月下旬～8月上旬頃に、伸長が停止していない新梢を摘心しましょう。摘心は先端の生長点を軽く摘む程度に行った方が副梢の発生が少なくなります。伸長が停止しない副梢は2～3葉残して摘心します。伸長が停止しそうな弱い副梢は棚面が混み合わなければ、そのまま放置してもかまいません。摘心後も棚下が暗い場合は、徒長的な新梢を中心に、新梢の間引きを行いましょう。このとき、間引く本数は必要最小限にとどめましょう。

ウ 水分管理

今年は梅雨に降雨が少なく、梅雨明け後も高温が続いていることから、土壌の乾燥状態と天候条件に合わせてかん水を実施しましょう。また、土壌水分の急激な変化は根にストレスを与え、縮果症の発生を助長する恐れがあるため、こまめなかん水を心がけましょう。

4 病虫害防除上の留意点

(1) 病 害

ア リンゴ褐斑病

7月中旬以降は本病の二次感染期となるため、薬剤散布は10日間隔で実施しましょう。

イ リンゴ輪紋病、炭疽病

輪紋病および炭疽病は高温多雨が続きと感染頻度が高くなります。例年、輪紋病または炭疽病の発生が多い園地では、いずれの病害にも効果のある薬剤を十分量散布しましょう。

なお、炭疽病の発生を抑制するために、園地周辺のニセアカシア、シナノグルミ、イタチハギなどの伝染源植物を除去しましょう。

ウ モモ灰星病、ホモプシス腐敗病

灰星病及びホモプシス腐敗病の重点防除時期にあるため、いずれの病害にも効果のある薬剤を十分量散布しましょう。

エ モモせん孔細菌病

晩生品種で発生が多い場合、マイコシールド 2,000倍を散布しましょう。なお、本剤は使用期間が収穫21日前までのため収穫前日数及び成分回数（オキシテトラサイクリン、散布、5回）に注意しましょう。

オ ナシ黒星病、輪紋病

現在、黒星病については「幸水」果実での感受性が高く、輪紋病では果実への感染が多くなる時期であるため、注意が必要です。黒星病、輪紋病に効果がある殺菌剤を十分量散布しましょう。さらに、黒星病の罹病部位は見つけしだい取り除きましょう。

(2) 虫 害

ア モモハモグリガ

モモハモグリガ第3世代成虫の発生盛期は平年並みに気温が推移した場合、7月5半旬頃と予想され、第4世代幼虫の防除適期は7月5半旬頃と推定されます。本種の発生は、放任園や無防除のハナモモ等が影響していると考えられるため、こうした発生源が近隣にある園地では、今後も発生に注意し、無防除園の管理や放任園の伐採等を行いましょう。

イ ナシヒメシンクイ

ナシヒメシンクイ第2世代成虫の発生盛期は平年並みに気温が推移した場合、7月3半旬頃と予想され、第3世代幼虫の防除適期は7月5半旬頃と推定されます。本種は第3世代からなし果実への寄生が増加するため、例年なしでの果実被害が多い地域では、近隣も園の芯折れに注意するとともに、第3世代幼虫以降の防除を徹底しましょう。

ウ ハダニ類

高温が続く場合はハダニ類の急増に注意し、要防除水準（1葉当り雌成虫1頭以上）の密度になったら速やかに防除を行いましょう。

表3 主要チョウ目害虫の防除時期の推定（果樹研究所 平成30年7月17日現在）

今後の 気温予測	モモハモグリガ		ナシヒメシンクイ	
	第3世代 成虫盛期	第4世代 防除適期	第2世代 成虫盛期	第3世代 防除適期
2℃高い	7月20日	7月24日	7月15日	7月22日
平年並み	7月21日	7月25日	7月15日	7月23日
2℃低い	7月21日	7月26日	7月15日	7月24日

注) 演算方法は三角法による。

起算日：モモハモグリガ 6月29日、ナシヒメシンクイ 6月17日

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7344
(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>